教育DX通信やまぐち

校務の効率化をめざして

-校務ＤＸのさらなる推進-

「校務DX（デジタル・トランスフォーメーション）」をテーマに、「できることから」という視点でコンテンツを提供します。

Vol.5　令和7年 4月 8日発行

山口県教育庁教育情報化推進室

DX推進の目的

令和7年3月26日に、文部科学省より「**GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト**※」〔確定値〕が公表されました。令和5年度の調査と比べると、全体的に**約5ポイントの伸び**が見られ、全国的に**校務でのDX**が進んでいる様子が見られました。ここでは、その一部を一介します。

※GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト･･･文部科学省が「**教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目**」を整理したもの

上昇幅が大きい項目

	R5		R6	
欠席・遅刻連絡を**クラウドで受付・集計**	58.4%	→	75.5%	＋17ポイント
保護者へのお便りや配布物を**クラウドで一斉配信**	32.9%	→	48.7%	＋16ポイント
職員会議等の資料をクラウドで共有し**ペーパーレス化**	67.3%	→	76.8%	＋9.5ポイント

【クラウド】･･･Microsoft TeamsやGoogle Classroomなどインターネットを通じてやり取りするツールやサービスのこと

集計業務の効率化や情報共有の迅速化に！

校務DXが進むと･･･

教員がクラウド利用の経験を**授業や指導等に生かす**ことで、「**クラウドを活用した児童生徒の学びの充実**」につながるという好循環の創出につながる！

校務でのクラウド活用が

学びの充実へ

一方で、これまでの業務を単にデジタルに置き換えるだけだと、「紙と同じで入力や確認の作業は変わらない」「ICTに不慣れな教員やICT担当の負担が増える」「デジタルとアナログの二重作業になる」といった課題が生じます。

どの業務をどのようにデジタル化していくのかを学校全体で考えるとともに、**業務の効率化**や**コミュニケーションの活性化**など、デジタル化することによるメリットや、その先の目的（時間の短縮による子どもと向き合う時間の増加や教育の質の向上など）をしっかりと捉えるようにしましょう。

> 校務DXの取組を進める上で、デジタル化は**あくまでも手段**であり（中略）まずは目的に照らして、不必要な業務の見直しや、業務フローの見直し、帳票の必要性やその内容の見直し等、**従来業務の見直し**を行い、**より最適な業務の在り方を見据えることが必要**。

上の文章は、令和7年3月に発表された**校務DXガイドブック**※において示された内容であり、一人ひとりの教員や学校全体で**デジタルを活用することによって新たな価値を生み出そうとする視点をもつ**ことがDXの推進につながると考えられます。

※【出典】（文部科学省）次世代校務DXガイドブック
https://www.mext.go.jp/content/20250401-mxt_jogai01-000041267_01.pdf

DXを進めるために

学校でのDXを推進していくための考え方や、具体的な事例などを、これまでの通信とともに「やまぐちＩＣＴ新たな学びラボ」に掲載しています。是非ご覧ください！

やまラボ